

財政計画（A:平成22年2月22日作成の25年度分とB:平成25年3月作成分）の差

		22財政計画	当初予算	計画一予算	
		A (百万円)	B (百万円)	△はマイナス	
入	歳	地方税	5,652	5,525	△ 127
		譲与税・交付金	922	854	△ 68
		普通交付税	7,186	6,900	△ 286
		特別交付金	800	800	0
		国庫支出金	4,259	3,700	△ 559
		県支出金	1,676	2,043	367
		分担金・使用料	664	610	△ 54
		繰入金	85	1,128	1,043
		地方債(合併特例事業債)	159	275	116
		地方債(臨時財政対策債)	803	951	148
		地方債(その他)	364	982	618
		その他	2,574	2,880	306
		計(A)	25,144	26,648	1,504
	出	歳	人件費(退職金)	351	323
		人件費(退職金以外)	3,178	3,121	△ 57
		扶助費	6,323	5,746	△ 577
		物件費	2,719	2,915	196
		補助費等	2,425	2,960	535
		公債費	2,885	2,885	0
		投資出資貸付金	1,914	1,838	△ 76
		繰出金	3,434	3,513	79
		普通建設事業費	1,476	2,496	1,020
		積立金	278	620	342
		その他	161	231	70
		計(B)	25,144	26,648	1,504
		歳入歳出差引額	0	0	0

*「22財政計画」は平成22年2月22日現在で作製した平成25年度分の財政計画。
 歳入・歳出とも3年前の財政計画と当初予算との比較では、約15億増えています。
 歳入では、地方税、普通交付税、国庫支出金等が予定よりも少なくなっているかわりに繰入金、地方債などで調整しています。
 歳出では、予定より人件費、扶助費が少なくなっています。補助費、物件費、普通建設事業費、積立金などが予定より多くなっています。

(A:平成22年2月22日作成の25年度分とB:平成22年3月作成分)の差				
		A (百万円)	B (百万円)	B - A
基金 残高 見込	財政調整基金	1,087	1,395	308
	減債基金	215	324	109
	公共施設等建設基金	87	87	0
	職員退職手当基金	302	353	51
	若者の定住化促進基金	1,381	1,050	△ 331
	その他の特定目的基金	660	1,138	478
	基金計	3,732	4,347	615

実質公債費比率(3カ年平均)が18%以上となった自治体は、起債の発行に際し「公債費負担適正化計画」を策定することとなっています。(倉吉市は平成17年度から平成22年度まではずっと18%を上回っていました)

○市債現在高の状況

一般会計合計	24,186,335	単位（千円）
特別会計合計	28,361,241	
簡易水道事業特別会計		1,014,894
住宅資金貸付事業特別会計		130,931
高齢者・障害者住宅整備資金貸付事業特別会計		312
上井羽合線沿道土地区画整理事業特別会計		1,405,340
下水道事業特別会計		19,661,847
駐車場事業特別会計		13,372
集落排水事業特別会計		5,929,216
国民宿舎事業特別会計		205,329
市債現在高の合計	52,547,576	

財政概況報告書(抜粋) より 執行期間 平成24.4.1～平成25.3.31より

*実際には事業のための起債や返還等で数字の変更はあります。

@一般会計と特別会を合わせた市債は525億円で、年間予算を上回っています。